

感染症発生動向調査委員会報告 9月

《今月のトピックス》

- 腸管出血性大腸菌感染症の報告が続いています。
- 手足口病の報告が続いています。

全数把握疾患

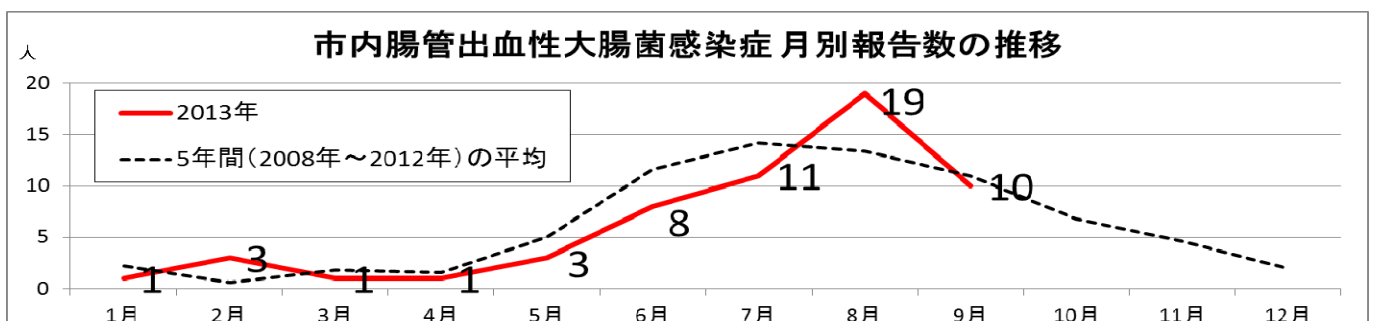
9月期に報告された全数把握疾患

腸管出血性大腸菌感染症	10件	アメーバ赤痢	1件
腸チフス	1件	クロイツフェルト・ヤコブ病	1件
レジオネラ症	5件	風しん	2件

＜腸管出血性大腸菌感染症＞

10件(O157 VT1VT2 6件、O157 VT2 2件、O26 VT1 1件、O103 VT1 1件)の報告がありました。このうち、4件では同居家族内で感染者が確認されましたが、感染原因は調査中です。先月は過去5年間の平均よりも報告数が上回りましたが、今月は過去5年間の平均(11.0)とほぼ同様です。本症は例年これからの季節にも報告されるので注意が必要です。主な感染経路は①菌に汚染された飲食物を摂取する、②患者の糞便で汚染されたものを口にする、であり、野菜などの食品を良く洗い、中心部まで加熱(75℃で1分間以上)することが重要です。さらに、しっかりした手洗いが重要です。症状が出た際には、自分の判断で下痢止めを飲まないで、早めに医療機関を受診しましょう。詳しくは、[「O157に注意しましょう」](#)(衛生研究所)をご参照ください。

◆[横浜市感染症臨時情報](#)(衛生研究所)



＜腸チフス＞ 1件の報告がありました。国内での経口感染が推定されています。

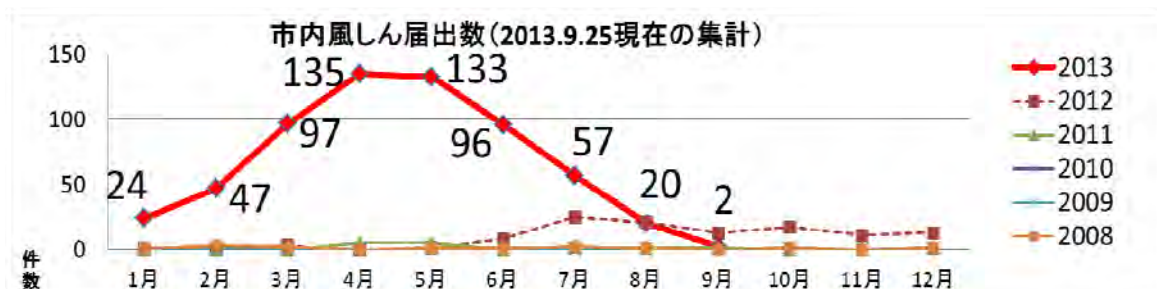
＜レジオネラ症＞肺炎型 5件の報告がありました。1件は大韓民国、他はすべて国内での感染で、感染経路等不明でした。

＜アメーバ赤痢＞腸管アメーバ症1件の報告があり、国内での異性間性的接触が推定されています。

＜クロイツフェルト・ヤコブ病＞古典型CJDの報告が1件ありました。

＜風しん＞ 2件の報告がありました。どちらも男性で、予防接種歴は確認できませんでした。現在報告数は減少傾向ですが、先天性風しん症候群予防のため、妊娠を予定・希望している女性は予防接種を受けましょう。予防接種の助成が実施されています。

◆[横浜市の風しん予防接種助成の詳細](#)(保健所)



定点把握疾患

平成25年8月26日から平成25年9月22日まで(平成25年第35週から平成25年第38週まで。ただし、性感染症については平成25年8月分)の横浜市感染症発生動向評価を、標記委員会において行いましたのでお知らせします。

平成25年 週一月日対照表

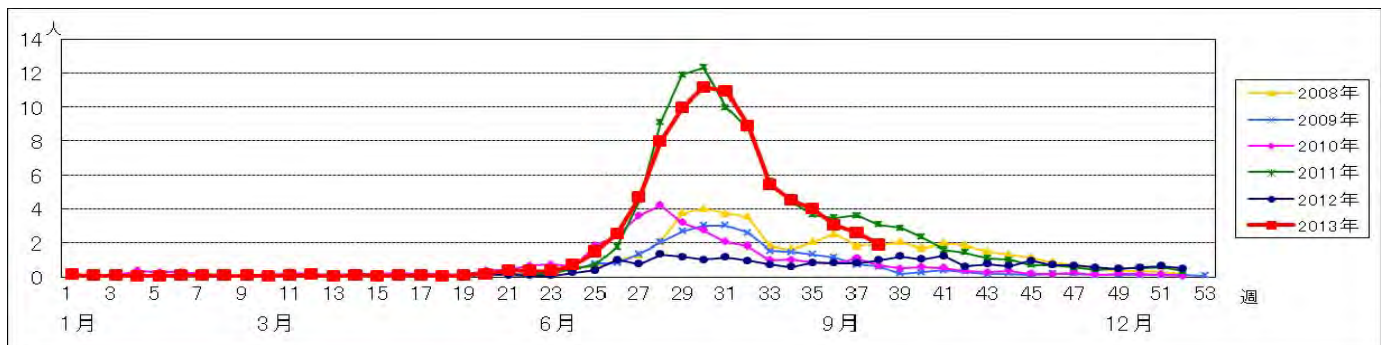
第35週	8月26日～ 9月 1日
第36週	9月 2日～ 9月 8日
第37週	9月 9日～ 9月15日
第38週	9月16日～ 9月22日

1 患者定点からの情報

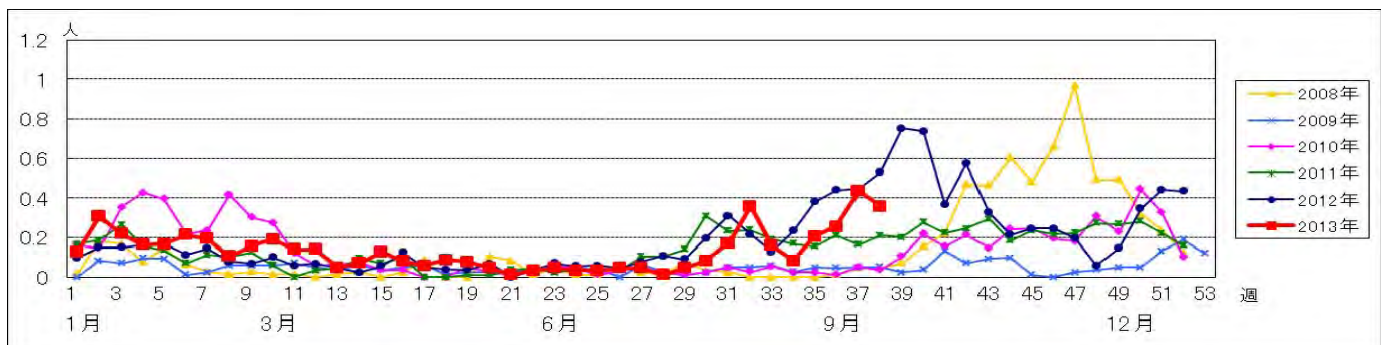
市内の患者定点は、小児科定点:92か所、内科定点:60か所、眼科定点:19か所、性感染症定点:27か所、基幹(病院)定点:4か所の計202か所です。なお、小児科定点は、インフルエンザと小児の11感染症を報告します。内科定点はインフルエンザのみを報告します。従ってインフルエンザは、小児科と内科で、計152定点から報告されます。

<手足口病> 第38週は市全体で定点あたり1.88となり、警報レベル終息基準値(2.00)を下回りました。ただ、磯子区5.67、神奈川区4.67、緑区3.60、金沢区2.60と4区で依然として警報レベル終息基準値を上回っています。原因ウイルスでは今回の流行当初から、全国でCA6が多く検出されており、現在も同様な傾向です。市内の病原体定点からもCA6が多く検出されています。CA6を病原とする手足口病は、水疱がかなり大きく、四肢末端に限局せず、広範囲に認められるといった臨床的特徴があり、罹患1～2か月後の爪甲脱落症も報告されています。感染経路は飛沫感染、接触感染、糞口感染であり、乳幼児における感染予防は手洗いの励行と排泄物の適正な処理が基本です。

◆横浜市感染症臨時情報(衛生研究所)



<RSウイルス感染症> 市全体で第38週0.36とやや増加傾向です。気温の変動が激しくなる季節でもあり、今後の注意が必要です。



<性感染症> 8月は、性器クラミジア感染症は男性が28件、女性が20件でした。性器ヘルペス感染症は男性が11件、女性が10件です。尖圭コンジローマは男性4件、女性が4件でした。淋菌感染症は男性が19件、女性が2件でした。

<基幹定点週報> マイコプラズマ肺炎では第35週0.50、第36週1.00、第37週1.33、第38週2.00とやや漸増傾向です。細菌性髄膜炎は第35週に1件(77歳女性、血液・髄液よりクリプトコッカス検出)報告されました。無菌性髄膜炎、クラミジア肺炎の報告はありませんでした。

<基幹定点月報> 8月はメチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症10件、ペニシリン耐性肺炎球菌感染症1件、薬剤耐性緑膿菌感染症1件が報告されました。薬剤耐性アシネトバクター感染症の報告はありませんでした。

【 感染症・疫学情報課 】

2 病原体定点からの情報

市内の病原体定点は、小児科定点:9か所、インフルエンザ(内科)定点:3か所、眼科定点:1か所、基幹(病院)定点:4か所の計17か所を設定しています。

検体採取は、小児科定点とインフルエンザ定点では定期的に行っており、小児科定点は9か所を2グループに分けて毎週1グループで実施しています。また、インフルエンザ定点では特に冬季のインフルエンザ流行時に実施しています。

眼科と基幹定点では、検体採取は対象疾患の患者から検体を採取できたときにのみ行っています。

<ウイルス検査>

9月に病原体定点から搬入された検体は、小児科定点46件(鼻咽頭ぬぐい液44件、結膜ぬぐい液1件、ふん便1件)、眼科定点1件(眼脂)、基幹定点6件(鼻咽頭ぬぐい液5件、髄液2件、ふん便1件、血清1件)でした。患者の臨床症状別内訳は、小児科定点は上気道炎21人、手足口病9人、下気道炎8人、RSウイルス感染症2人、発疹2人、ヘルパンギーナ1人、咽頭結膜熱1人、胃腸炎1人、アデノウイルス感染症1人、眼科定点は流行性角膜炎1人、基幹定点はインフルエンザ(疑い含む)3人、無菌性髄膜炎2人、頸部リンパ節炎1人でした。

10月9日現在、小児科定点の上気道炎患者2人と下気道炎患者1人からコクサッキーウイルス(以下Cox) B1型、咽頭結膜熱患者1人とアデノウイルス感染症患者1人からアデノウイルス4型、手足口病患者1人からエンテロウイルス71型、上気道炎患者1人からヘルペスウイルス1型、基幹定点のインフルエンザ患者2人からインフルエンザウイルスAH3型、1人からAH1pdm09ウイルスが分離されています。

これ以外に遺伝子検査では、小児科定点の下気道炎患者8人からRSウイルスB型(2人)、RSウイルスB型とライノウイルスの重複(1人)、RSウイルスA型(2人、うち1人はCoxB1型分離)、パラインフルエンザウイルス(以下Para) 1型(1人)、Para4型(1人)、ライノウイルス(1人)、上気道炎患者7人からCoxA2型(2人)、CoxA2型とPara3型の重複(1人)、ライノウイルス(1人)、ライノウイルスとPara4型とエンテロウイルス68型の重複(1人)、エコーウイルス25型(1人)、コロナウイルスOC43型(1人)、手足口病患者5人からCoxA6型(3人)、エコーウイルス6型(2人)、RSウイルス感染症患者2人からRSウイルスA型(1人)、RSウイルスA型とヒューマンボカウイルスの重複(1人)、ヘルパンギーナ患者1人からCoxA10型、発疹患者1人からエコーウイルス(型未同定)の遺伝子が検出されています。

その他の検体は引き続き検査中です。

【 検査研究課 ウイルス担当 】

<細菌検査>

9月の感染性胃腸炎関係の受付は、小児科定点1件、基幹定点から1件、定点以外の医療機関等からは13件あり、腸管出血性大腸菌9件、チフス菌1件が検出されました。

その他の感染症は小児科から5件、基幹病院から1件、その他が5件で、*Legionella pneumophila* と肺炎球菌でした。

(次ページに表)

表 感染症発生動向調査における病原体検査(9月)

感染性胃腸炎

検査年月 定点の区別 件数	9月			2013年1月～9月		
	小児科	基幹	その他*	小児科	基幹	その他*
	1	4	13	4	77	64
菌種名						
赤痢菌					2	2
腸管病原性大腸菌					2	
腸管出血性大腸菌			9		1	47
腸管毒素原性大腸菌					2	
チフス菌			1		4	1
パラチフスA菌						2
サルモネラ				1	20	
不検出	1	4	3	3	46	12

その他の感染症

検査年月 定点の区別 件数	9月			2013年1月～9月		
	小児科	基幹	その他*	小児科	基幹	その他*
	5	1	5	53	22	138
菌種名						
A群溶血性レンサ球菌	T1			1	1	
	T2			5		
	T4			9		
	T6	1		7		
	T12			4		
	T25			2		
	T28			3		
	T B3264	1		3		
B群溶血性レンサ球菌				1		
G群溶血性レンサ球菌						2
メチシリン耐性黄色ブドウ球菌					10	
バンコマイシン耐性腸球菌					2	21
<i>Legionella pneumophila</i>			1			3
インフルエンザ菌				1		3
肺炎球菌			2	5	3	21
<i>Neisseria meningitidis</i>						2
黄色ブドウ球菌				2	4	1
結核菌						10
緑膿菌						63
その他		1			2	2
不検出	3	0	2	10	0	10

*: 定点以外医療機関等(届出疾病の検査依頼)

T(T型別): A群溶血性レンサ球菌の菌体表面のトリプシン耐性T蛋白を用いた型別方法

【 検査研究課 細菌担当 】